

異なる文化にふれて

Q1. 研修に参加して良かったと思うことは何ですか？

異文化との交流が最も印象に残っています。日本とそれ以外の国では慣習等が異なるということは頭ではわかっていたのですが、スーパーマーケットのシステムや公共交通機関の運行状況など、実際に目にすることで、文化の違い、それを尊重することの必要性を痛感しました。PA(ケンブリッジの学生アシスタント)との交流でもわからない単語から、レストランまで、私がわからないことを気軽に聞くことのできる人がいたことも研修をより充実させることに繋がったと思います。

Q2. 研修に参加したことで、どんな力がつきましたか？ どんな点が成長したと思いますか？

英語への抵抗感が払拭することができたことです。正直、この一ヶ月間の研修を通じて、自らの英語力が劇的に向上したということはありませんが、その前段階である精神的なハードルの面で成長することができたように思えます。英語で人と会話するという経験があまりなかったので、会話をするのを苦手としていましたが、否応なく、英語を話すことが求められる環境に身を置いたことで、改善することができました。まずマインドセットの変化に伴って自身の行動も変化していったと感じています。

Q3. 研修に参加したことで、今後の学習面と将来のキャリアに関し、どんな気づきがありましたか？

今回の研修を通じて、将来のキャリアで求められるであろう英語のレベル(海外との案件において会議に参加すること等)と今現在の私の英語力のギャップが明確になりました。スピーキングの能力が不足していることが顕著だったことに加え、使うことのできる表現の幅が狭かったように感じました。人との会話ということで、その場でわからなかった表現などをすぐに教えてもらうことのできる環境はとても貴重であったと日本に戻って来て実感しました。また単に英語表現を増やすということにとどまらず、自己表現という観点においても、自らの考えを論理的に伝える力などを養うことも重要であると感じました。

Q4. 研修中の一番の思い出は何ですか？

日々のケンブリッジでの生活の中でもパブに行ったことが一番印象に残っています。日本での居酒屋とは異なり、カウンターで注文をするスタイルなどでかなり戸惑ったことを覚えています。またあまり日本で見たことがない銘柄のお酒を楽しむことができました。プレミアリーグを観戦したり、友人と語り合ったりととても楽しい時間を過ごすことができました。初めは入ることに躊躇っていたので、もっと行っておけばよかったと今になって後悔しています。

Q5. 未来の参加者へのメッセージ（次年度以降の参加者に向けて、これだけは伝えたい！と思うことを先輩として、メッセージをお願いします。）

この研修への参加が意義のあるものであったのかどうかについてはすべて自分の行動に懸かっていると思います。事前学習を深めることはもちろんですが、PA やケンブリッジ大学の先生とのコミュニケーションを積極的に取っていくことが必要不可欠であると言えるでしょう。最初は少しハードルが高いかもしれませんが、小さなミスなどは気にせず、チャレンジしてみることが何よりも重要です。1 ヶ月という少し短い期間ですが、一緒に過ごすことのできる貴重な機会をぜひ活かして欲しいと思います。